

動では預金高七十三億円、目標額の約四倍にも達しました。県北一丸となつての熱意と独自の精力的な運動が、今回の決定の大きな要因となりました。

大館能代空港は、第六次空港整備五カ年計画の中の予定事業（必要は認める。しかし、課題あり）に位置づけられ、「複数路線または相当の便数が就航できる需要の確保」と「相当程度の需要開発が見込まれる周辺開発」の二点が課題として挙げられています。そして、その課題が解決する見通しが立った段階で予定事業から新規事業に格上げされ、工事がスタートする手順になります。

県は早期着工に向け、十二月一日付で企画調整部内に「大館能代空港建設推進事務局」を設置しました。四年度中に課題解決の見通しを立て、五年度着工、十年度開港を目標にしています。具体的には空港までのアクセスの整備、観光振興計画の策定、臨空工業団地適地調査などを実施することとしています。

市としても、県や近隣市町村と連携を図りながら、航空需要の創出やアクセスの整備などに全力を上げます。今後は早期着工、早期開港に向けた運動を展開していかなければなりませんので、今まで同様ご理解とご支援をよろしくお願ひします。

日本海沿岸自動車道

十二月三日の国土開発幹線自動車道建設審議会で、日本海沿岸東北自動車道の大館—小坂間十四*が予定路線から基本計画路線に格上げされました。

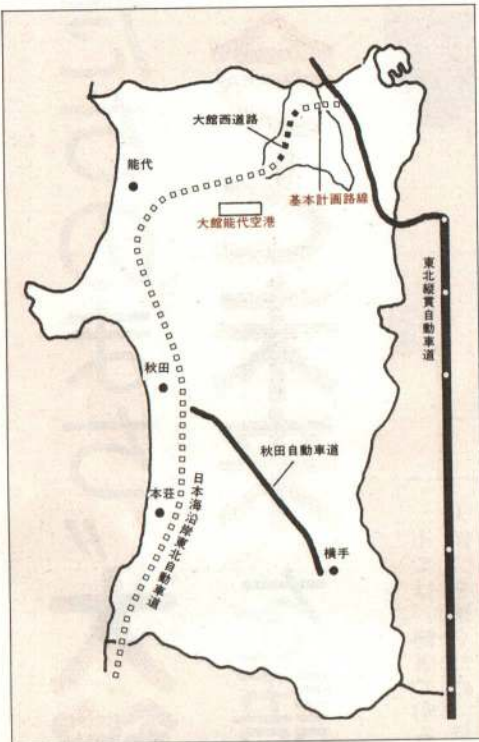
日本海沿岸東北自動車道は、新潟を起点に本荘・秋田・能代を経て、大館ですでに着工している自動車専用道大館西道路を取り込み、小坂町で東北縦貫自動車道と接続、終点青森までを結ぶものです。

基本計画路線となった大館—小坂間の建設工事は、環境影響評価後、整備計画路線となつてから開始されます。この区間が開通すると、大館からノンストップで東北縦貫自動車道への乗り入れが可能となります。しかし、大館能代空港への最

短アクセスとなる能代—大館間はまだ予定路線のままですから、空港の課題解消に向けても能代—大館間の早期計画組み入れ、早期完成のための運動を空港同様に推進しなければなりません。

地域への波及効果

大館能代空港と日本海沿岸東北自動車道の完成は、全国主要都市への所要時間を大幅に短縮させるのはもちろん、農林水産物の市場拡大や工業技術の高度化など、地域産業へのメリットは計り知れないものがあり、企業誘致とそれに伴う雇用拡大も期待できます。また、リゾート開発により観光分野でも無限の可能性を秘めています。空港と高速道路。県北で今、高速交通時代の幕が開こうとしています。



ミス大館による村岡運輸大臣への陳情

- 2月・同盟会が空港の名称を募集—応募総数七百二十五件でした
- 3月・県が基本計画調査結果を公表
- 4月・県が空港の名称を「大館能代空港」に決定
- ・同盟会が海部内閣総理大臣へ陳情
- 5月・県が気象観測、環境影響調査を開始
- ・同盟会が大野運輸大臣へ三十三万八千六百四十三人の署名簿を提出
- ・運輸省で第六次空港整備五カ年計画のヒアリング
- 6月・同盟会が「森と水の空港づくり構想」を発表
- 7月・同盟会が衆議院運輸委員会の一行に大館駅などのホームで陳情
- 10月・同盟会が鷹巣町で早期実現総決起大会を開催



中央大会には500人が出席

- 9月・フライト預金募集開始—十月末日までに約七十三億四千万円が集まりました
- 11月・開議で大館能代空港の第六次空港整備五カ年計画への組み入れ決定

平成3年

- 1月・同盟会が村岡運輸大臣へ陳情
- 3月・運輸省担当官が現地視察
- 5月・村岡運輸大臣が現地視察
- 7月・大館市で91秋田エアーフロンツフォーラム開催
- ・推進会議がテレビでスポットコマーシャルを開始
- ・同盟会が東京で二回目の早期実現中央大会を開催